

なお、城址は昭和27年に新たに都市計画公園「富山城址公園」として開園しました。そして、同29年には戦災復興事業の完了を機に、城址一帯を会場として富山産業大博覧会が開催されました。その際、記念の建築物として建設されたのが三重四階の天守閣「富山城」です。会期中は「美の殿堂」として各種展覧会が開催され、終了後に郷土博物館として開館しました。

現在、城址公園は市街地の貴重なオアシスであり、天守閣は市街地のランドマークとなっています。



昭和30年頃の城址公園

松川左岸から見た風景。児童公園越しに「富山城」が見えます。



現在の城址公園

市役所展望塔から見た城址公園。ビルが建ち並ぶ市街地にあって、貴重な緑地であることがわかります。

*

*

*

さて、江戸時代の富山城と私たちが暮らす街をつなぐ糸は見えましたか。約120年前まで存在した富山城は廃城後、長い時間をかけて現在の城址公園と高いビルが建ち並ぶ市街地に変貌を遂げました。城址公園の範囲は、富山城のほんの一部にすぎないのです。ここに至るには、多くの人々の様々な思いや考えがありました。今後は、「富山市ノ生ミノ母」(P13参照)である富山城址を、大切に未来へと伝えていかなければならないでしょう。

城址公園で見られる富山城の遺構

城址公園を散策すると、富山城の遺構を見ることができます。

郷土博物館が建っている辺りの石垣を見てみましょう。ここは、本丸の正面に当たる場所で、^{くろがねもん} 枡形門形式の鉄門があった所です。^{かぎ} 鉤の手状に折れ曲がっているのはその名残です。そして、この石垣には普通の石よりも大きな石が6個積まれています。これは^{かがみいし} 鏡石といって、お城を立派に見せるために積まれたものです。また、石の中にはいろいろな刻印が刻まれているものもあります。現在のところ、公園全部で約90種、150個以上が見つかっています。このほかにも、堀や土橋も残っていますので、実際に公園を歩いて確かめてみてください。



堀・土橋・石垣